

氣多 雅子	京都大学文学研究科教授
竹内 綱史	京都大学文学研究科博士課程
今村 純子	京都大学文学研究科研究指導認定
川口 茂雄	京都大学文学研究科博士課程
山内 誠	京都大学文学研究科博士課程

(掲載順)

**** 編集後記 ****

「研究室紀要」がようやく発刊の運びとなった。氣多教授の創刊の辞及び巻頭論文にも記されている通り、確かに21世紀という時代は、古さと新しさと共に疲弊してしまったように感じられざるを得ない、そういう時代なのかもしれない。奇しくも京都大学の哲学的伝統を築き上げてきた巨星達の訃報が相次いだ。かつては、そうした偉人達にはかなわぬとも、“そこそこ意味のある仕事”ならできるという何らかの自信が、哲学・宗教哲学に取り組む者達には漠然と共有されていた様に思われる。今日若手研究者達は、果たして意味のある仕事などそもそも可能なのかという苦々しい問いを彼らの道の最初の一步から引き受けざるを得ない状況にあるのかのようである。「専門領域」に閉じこもるといふ自己防衛の常套手段すらもはや余りにみずぼらしいひとつのファッションとしか見えなくなっているシニカルな時代の雰囲気は、しかしひょっとして“本当に意味のある仕事”への渇き、欲望を、躓いた時にも漠然とした自信に頼ることのできた世代には想像出来ないようなかたちで、どこかに養いつのらせていてくれたりはしないのだろうか。(川口茂雄記)